

こどもの病気 「アレルギー性鼻炎」

「くしゃみ、鼻水、鼻づまり」かぜぐすりのコマーシャルでよく聞きますが、かぜだけではありません。

- 原因：アレルギー体質の子がアレルゲン（アレルギー反応の原因物質）に反応して、症状が鼻に出たものです。ダニ、花粉、ハウスダスト（ほこり）などがアレルゲンです。
- 症状：くしゃみ、鼻水、鼻づまりが続きます。
- 治療：アレルギーの反応を抑える点鼻液が出ます。症状が出たときだけでなく、指示通り用法・用量を、守りましょう。のみぐすりを使うこともあります。症状がひどいときだけ使うくすりが、処方されることもあります。

（治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものを記載しています。）

- 病院に行くタイミング：指示があれば、定期的に受診しましょう。あまりにも苦しそうなら受診しましょう。
- おうちでできること：
 - 掃除・・・普段から、掃除をしっかりと、ダニなどのアレルゲンのない環境をできるだけつくりましょう。
 - 湿度・・・お部屋の湿度を上げましょう。加湿器を使う。ぬれタオルを干すなど工夫をしましょう。

アレルギー性鼻炎では、「症状がない。症状があっても軽く、日常生活に支障のない状態で、くすりもあまり必要でない状態になる。もし、症状が出ても、すぐにおさまる。」が、治療の目標になります。通年性のものと、季節性のものがあります。お医者さんの指示に従って、つらい状態をなくしましょう。

目に症状がでると「アレルギー性結膜炎」になります。目が、かゆくこするので、赤くはれることがあります。治療は、アレルギー反応をおさえる点眼液を定期的に使います。用法・用量を守りましょう。症状が強いときだけ使うくすりが処方されることもあります。

「アレルギー性鼻炎」と「アレルギー性結膜炎」で、花粉が原因でおこるのが「花粉症」ということになります。花粉の量により、症状がかわってきます。こちらは季節性です。2月頃からの花粉情報に注意し、対策をこころがけましょう。

気になる症状 「鼻水・鼻づまり」

鼻づまりには、鼻水のあるものと、ないものがあります。アレルギー性のはサラサラした鼻水が多く、かぜ症候群では粘っこいもの、副鼻腔炎になると黄色っぽくなってきます。急性扁桃炎などでは、鼻水のでないことがあります。どちらにしても苦しいものです。原因をつきとめて、取り除くのが一番ですが、点鼻薬をつかうと楽になることがあります。

赤ちゃんは、口で上手に呼吸ができません。鼻がつまると、ミルクが飲みにくくなり、機嫌が悪くなりますね。見ていても苦しそうです。はやくよくなるとよいですね。